

三河の昆虫

№. 30

1984年3月

〒 444 岡崎市明大寺町
南郷中 生理学研究所
技術課内
三河昆虫研究会 発行
水谷印刷 印刷
(05362) 3-1211代

愛知県およびその周辺に生息する ゴマシジミの地理的変異について

杉 坂 美 典

1. はじめに

愛知県およびその周辺に生息するゴマシジミは、大きく2群に分けることができる。

1つは、愛知県南設楽郡・北設楽郡、長野県南部の根羽村・平谷村・浪合村にかけて分布していて、中間型が多く出現する群である。

もう1つは、愛知県南設楽郡・東加茂群・西加茂群、岐阜県土岐市・瑞浪市・恵那郡〜にかけて分布していて、青色型が多く出現する群である。

大きく分けるとこのようになるが、産地によっては、かなりの地理的変異が見られ、また、個体変異が大きいため、どのような変異状況をしているのか把握しにくい種の1つである。

筆者は、1979～81年にかけて、29産地280頭の個体を調査し、データをコンピュータにかけて分析した。

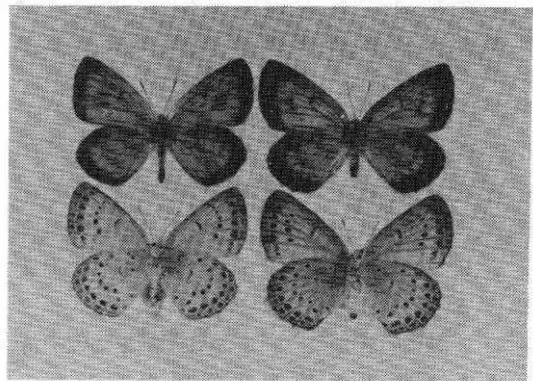
ここにまとめたものは、1981年に執筆した論文(旺文社第25回全国学芸コンクールにて茅誠司賞・江崎玲於奈賞を受賞)の分析結果に1982～83年の調査結果を追加したものである。なお、紙面の都合上、分析の詳細は省略し、概要・結論のみにとどめた。

2. 調査区域と個体数

1979～81年の調査区域と個体数を次に示す。

- 岐阜県岩村町 (11♂♂, 17♀♀)

- " 山岡町 (13♂♂, 11♀♀)
- " 明智町 (3♂♂, 7♀♀)
- " 土岐市 (1♂, 2♀♀)
- 愛知県小原村 (22♂♂, 15♀♀)
- " 藤岡村 (3♂♂)
- " 旭町 (38♂♂, 20♀♀)
- " 足助町 (28♂♂, 26♀♀)
- " 稲武町 (1♀)
- " 設楽町 (1♀)



ゴマシジミ (愛知県足助町産)

[雄-表面 雌-表面]
[雄-裏面 雌-裏面]

- 愛知県作手村 (10♂♂, 8♀♀)
- 長野県浪合村 (1♂, 1♀)
- " 平谷村 (35♂♂, 8♀♀)

3. 測定について

上記の標本について、次のことを測定した。

- a. 個体の大きさ (前翅長)
- b. 前翅外縁黒褐色部の幅
- c. 前翅表面の黒化度 ($a \div b$)
- d. 前翅表面の黒斑の発達程度
- e. 後翅表面の黒斑の発達程度

また、測定結果について、次のことを分析した。

- A. 雄と雌で、有意な差が認められるか。
- イ. 発生の時期の違いで、有意な差が認められるか。
- ウ. 産地が異なることで、有意な差が認められるか。

4. 検定法について

使用した検定法は、次のものである。

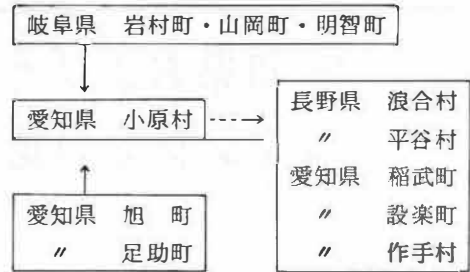
- F-検定法
- 等分散における t-検定法
- 不等分散における t-検定法
- 独立多資料における総体有意差法 (対照群を置く)
- Bartlettの検定法
- 分散分析法

5. 検定結果のまとめ、考察

- A. 大きさについて、雄と雌を比較すると、一般的には雌の方が大きい。しかし、小原村と旭町の西部の産地では、雄と雌の大きさに差は認められない。
- イ. 黒化の度合について、雄と雌を比較すると、雌の方が黒くなる産地が点在するが、全体としては、一概に、雌の方が黒化するとは言えない。
- ウ. 同一産地では、発生期が異なることによって、大きさ・黒化の度合に特定の傾向が見られることはない。
- エ. 愛知県小原村の1産地と岐阜県山岡町の

1産地とでは、大きさに有意な差が認められるが、他の産地間では、産地によって大きさが異なることはなく、作手村産の個体が小型化する傾向があるとは言えない。

オ. 黒化の度合について、グループ間の関係は、次のようになっている。



(↑……黒化の方向)

カ. 前後翅表面の黒斑の大きさについて、雌では、岐阜県南部から愛知県西部の産地にかけて、南下するにしたがって黒斑が小さくなる傾向がある。雄では、連続しない。

キ. 作手村産の一地域では、表面に白斑が現れる傾向が強い。

ク. 作手村の一産地では、長野県南部・稲武・設楽町に分布する中間型が生息し、総括的に作手村産の個体の特徴を論じることはできない。

6. おわりに

ここでは、概要・結論しか述べることしかできなかったが、分析の詳細は、別の機会にて報告する予定である。なお、現在は、研究対象地域を岐阜県全域に拡大して研究中であり、数年後には、まとめてみたいと思う。

安城の蝶

久永和彦

I 概要

安城市は岡崎平野のほぼ中心に位置し、東西10km、南北14.7km、面積85.7km²の市である。

市の大部分は碧海台地と呼ばれる洪積台地上にあって、標高も10m~20m前後で北東から南西にかけてゆるく傾斜している。総面積の50%が農耕地という自然環境である。

年平均気温は15.1℃(昭38~57)で温暖な気候であるが、年平均降水量は1470mm(昭38~57)と少なく、県下有数の豪雨地帯となっている。

市内の高等植物は137科822種記録されており(畔柳, 昭53)、岡崎、西尾と比較すればかなり少ないが、知立よりも少し多い。しかし、市内の帰化植物は140種を数え、自生種に対する帰化植物の比率がかなり高くなっており、都市化が早いテンポで進んでいることを示している。

このような自然環境の中で昭和50年~昭和57年にかけて、わずかに残存する二次林や社寺林、矢作川堤において蝶類を採集してきた。安城市からは昆虫類の報告はほとんどなく、都市近郊の集約農業地帯の蝶相の一つのモデルとして頂ければ幸いである。

II 安城産蝶類目録

1. セセリチョウ科 (3種)

1. ギンイチモンジセセリ (稀)
23-VIII, 1981 (矢作川堤), 31-VIII, 1982 (矢作川堤) 春の発生は確認していない。
2. キマダラセセリ (普)
16-VIII, 1981 (二本木), 6-VI, 1982 (矢作川堤)
3. イチモンジセセリ (多)
25-VIII, 1981 (矢作川堤)

- 1 桜町 (クロマツ林)
- 2 上条 (スタジイ林)
- 3 東尾 (スタジイ林)
- 4 赤松 (スタジイ林)
- 5 赤松 (クロマツ林)
- 6 桜井 (スタジイ林)
- 7 木戸 (スタジイ林)
- 8 榎前 (スタジイ林)
- 9 東端 (スタジイ林)

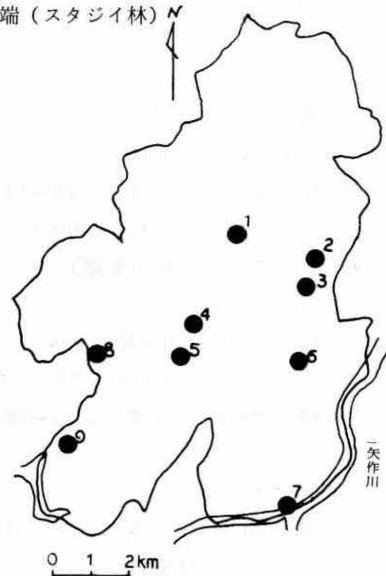


図1 安城の社寺林と樹相 (調査地点)

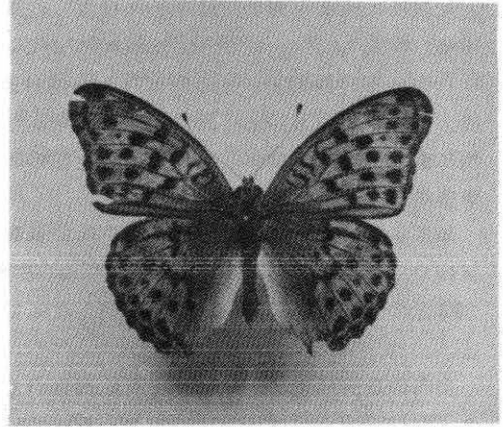
2. アゲハチョウ科 (6種)

4. アオスジアゲハ (普)
24-VII, 1979 (美園公園)
5. キアゲハ (少)
31-VII, 1979 (東尾), 25-VIII, 1981 (矢作川堤)
6. アゲハチョウ (普)
31-VII, 1979 (東尾), 31-VIII, 1981 (二本木), 23-III, 1982 (二本木)

7. クロアゲハ (少)
18-VIII, 1981 (二本木), 31-VIII, 1982
(東尾), 社寺林, 雑木林で見られる。
8. モンキアゲハ (稀)
23-VII, 1981 (目撃)
9. カラスアゲハ (稀)
31-VII, 1979 (東尾), 26-VII, 1981 (二本木)
- 3. シロチョウ科 (4種)**
10. キチョウ (普)
25-VII, 1979 (二本木), 3-XI, 1979
(二本木)
11. ツマグロキチョウ (少)
23-VII, 1981 (矢作川堤), 31-VIII, 1982
(篠目)
12. モンキチョウ (普)
27-VIII, 1981 (藤井)
13. モンシロチョウ (多)
3-IV, 1980 (二本木), 25-VI, 1981
(矢作川堤), 28-XI, 1981 (二本木)
- 4. シジミチョウ科 (6種)**
14. ベニシジミ (普)
20-III, 1979, 10-X, 1982 (二本木)
15. ウラナミシジミ (少)
28-VIII, 1979 (二本木), 25-VIII, 1982
(矢作川堤) 秋口に発生。
16. ヤマトシジミ (普)
6-VIII, 1979 (二本木), 15-VIII, 1981
(矢作川堤), 民家の庭, 道端に普通。
17. ルリシジミ (少)
31-VIII, 1981 (矢作川堤)
18. ツバメシジミ (普)
18-VIII, 1981 (矢作川堤), 25-VIII, 1982
(矢作川堤)
19. ムラサキシジミ (稀)
3-VII, 1982 (東端)
- 5. ウラギンシジミ科 (1種)**
20. ウラギンシジミチョウ (稀)
31-VIII, 1982, その他目撃記録あり。

6. タテハチョウ科 (10種)

21. ミドリヒョウモン (稀)
23-IX, 1982 (二本木)
22. オオウラギンシジヒョウモン (稀)
3-VII, 1982 (木戸矢作川堤), 平地では
きわめて稀。アザミの花に吸密。



オオウラギンシジヒョウモン

23. コミスジ (稀)
24-VII, 1982 (藤井)
24. アサマイチモンジ (稀)
31-VIII, 1982 (東尾), 新鮮個体を採集
25. ルリタテハ (少)
24-VIII, 1978 (二本木)
26. キタテハ (普)
3-VIII, 1979 (矢作川堤), 27-VIII,
1981 (藤井), 矢作川堤に多い。
27. ヒオドシチョウ (稀)
23-VII, 1981 (木戸)
28. アカタテハ (少)
26-VIII, 31-VIII, 1981 (二本木)
29. ヒメアカタテハ (普)
12-V, 1978 (緑), 26-VIII, 1-XI,
1981 (二本木)
30. ゴマダラチョウ (少)
1-VIII, 1979 (上条), 23-VII, 1981
(東尾), 一部の社寺林で周年発生。

7. ジャノメチョウ科 (3種)

31. ジャノメチョウ (少)
3-VIII, 1979 (木戸), 3-VII, 1982
(矢作川堤) 矢作川堤で局部的に周年発生。
32. サトキマダラヒカゲ (少)
3-VIII, 1979 (木戸), 31-VIII, 1982
(東尾)
33. ヒメジャノメ (多)
3-VIII, 1979 (東端), 30-V, 1982 (二本木), 民家周辺、社寺林に多い。

III まとめ

本市で採集記録した蝶類は、7科33種で県内127種の約26%、自然環境の比較的似ている西尾市よりも約10種少ない。

科別では——

- セセリチョウ科3種、アゲハチョウ科6種、
シロチョウ科4種、シジミチョウ科6種
ウラギンシジミ科1種
タテハチョウ科10種、ジャノメチョウ科3種

となり、大部分が耕地と住宅地という厳しい自然環境での結果である。

記録した多くの種は平地性、暖地性の普通種であり、生活空間からみても、草原性のものが多く、二次林、照葉樹林帯で生息する種は少ない。このことは、近隣の知立市、高浜市、刈谷市、碧南市にもあてはまることで、これらの地域の蝶相も想像できる。

イチモンセセリ、モンシロチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ヒメアカタテハ、ヒメジャノメなどが広範囲に生息する中、ギンイチモンジセセリ、ムラサキシジミ、アサマイチモンジ、ゴマダラチョウ、ジャノメチョウの発生は、本市にとって貴重な存在であり、これからもその小さな生命たちが姿を消さないよう自然環境の保全に努めたいものである。

原田猪津夫氏採集のコメツキムシ(1)

大平仁夫

田口町に在住の原田猪津夫氏は、三河地方の動物研究者として知られているが、最近では奥三河地方の昆虫も調査されている。

筆者は今度、同氏が1980年に奥三河地方で採集されたコメツキムシについて調査することができたのでここに報告する。

ここに記録する種は、すべて原田氏自身で採集されたもので、採集年は1980年であり、採集日の後に()で示したのは調査頭数である。

1. *Tetrigus lewisi* Candèze, 1873
オオクシヒゲコメツキ
豊根村(分地), 26-VII (1♂)。

北設楽地方では段戸山から記録されているが、豊根村からは最初の記録である。燈火に飛来し

た。

2. *Pectocera fortunei fortunei*

Candèze, 1873 ヒゲコメツキ
豊根村(分地), 6-VI (2♂1♀)。燈火に飛来した。

3. *Agrypnus (Agrypnus)*

binodulus binodulus
(Motschulsky, 1861) サビキコリ
豊根村(金越), 29-VI(2); 東栄町(桑原),
29-VII(1); 稲武町(井山), 24-VI(5); 津具村
(下津具), 6-VII(2)。一般に花上で得られている。

4. *Agrypnus (Agrypnus) cordicollis*

(Candèze, 1865) ムナビロサビキコリ

豊根村(分地), 26-VI(1)。燈火に飛来した。

5. *Agrypnus (Colaulon) scrofa scrofa*

(Candèze, 1873) ヒメサビキコリ
豊根村(分地), 4-VII(1)。燈火に飛来した。

6. *Anostirus (Ipostirus) daimio*

(Lewis, 1894) ダイミョウヒラタコメツキ
稲武町(面ノ木峠), 25-V(2♂)。カエデの花に飛来していた。この地方では少ない種である。

7. *Actenicerus orientalis*

Candèze, 1889 ヒメシモフリコメツキ
稲武町(井山), 30-V(2)。クリの花上で見出された。やや山地性の種である。

8. *Actenicerus pruinosus*

Motschulsky, 1861 シモフリコメツキ
設楽町(名倉), 23-V(1); 稲武町(面ノ木峠), 25-V(1)。名倉の個体はガマズミの花にきていた。

9. *Actenicerus modestus*

Lewis, 1894 ヘリアカシモフリコメツキ
稲武町(面ノ木峠), 25-V(1)。カエデの花にきていた。

10. *Stenagostus umbratilis*

(Lewis, 1894) オオツヤハダコメツキ
豊根村(分地), 4-VII(1); 稲武町(面ノ木峠), 10-VIII, 80。いずれも燈火で得られた。

11. *Denticollis miniatus*

(Candèze, 1885) ミヤマベニコメツキ
稲武町(面ノ木峠), 5-VI(1♀)。ガマズミの花上で見出された。

12. *Melanotus (Melanotus) lewisi*

Schenkling, 1927 ルイスクシコメツキ
豊根村(分地), 26-VI(1♀)。燈火に飛来した。北設楽地方ではこれが最初の記録と思

われる。

13. *Melanotus (Melanotus) correctus*

Candèze, 1865 ヒラタクロクシコメツキ
豊根村(分地), 19-VII(2); 東栄町(御園), 29-VI(1); 津具村(下津具), 29-VI(1)。山林に普通の種である。

14. *Melanotus (Melanotus) annosus*

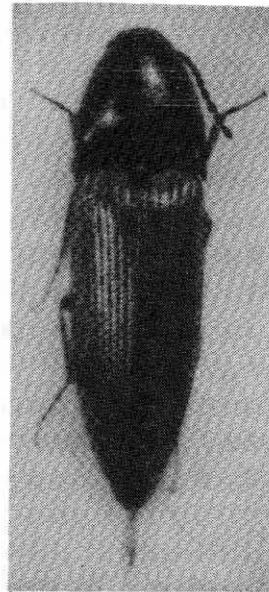
Candèze, 1865 クロツヤクシコメツキ
豊根村(舟ノ次), 6-VII(1), 設楽町(名倉) 23-V(1)。段戸山から記録があるが、比較的少ない種である。

15. *Pseudelater carbunculus*

(Lewis, 1879) ヒメクロコメツキ
稲武町(面ノ木峠), 25-V(1)。カエデの花に飛来していた。

16. *Ampedus (Ampedus) orientalis*

(Lewis, 1894) アカコメツキ(第1図)



第1図 アカコメツキ(♀)

豊根村(茶白山), 11-VI(1♀)。この地域では豊根村三次から記録されているのみである。

17. *Ampedus (Ampedus) ivanovi*

(Jacobson, 1913) クロコメツキ
設楽町(段戸裏谷), 5-VII(3); 津具村(下
津具), 6-VII(1)。ブナ林帯で見出される種で、
段戸裏谷ではよく見かけられる。

18. *Gamepenthès versipellis*

(Lewis, 1894) メスアカキマダラコメツキ
設楽町(段戸裏谷), 31-VII(2♀)。ノリ
ウツギの花にきていた。

19. *Gamepenthès ornatus*

(Lewis, 1894) コキマダラコメツキ
津具村(下津具), 6-V(1)。クリの花上で
見出された。この地域では段戸裏谷から知られ
ているのみである。

20. *Hayekpenthès pallidus pallidus*

(Lewis, 1894) ホソキコメツキ
豊根村(分地), 19-VI(1)。燈火に飛来した。

21. *Neotrichophorus junior*

(Candèze, 1873) ヒゲナガコメツキ
豊根村(分地), 19-VI, 80(1♀)。燈火
に飛来した。

22. *Elater (Elater) sieboldi*

(Candèze, 1873) オオナガコメツキ
稲武町(面ノ木峠), 30-V(1)。カエデの花
上で見出された。

23. *Ectinus insidiosus*

(Lewis, 1894) キアシクロムナボソコメツキ
豊根村(舟ノ沢), 6-VII, 80(1); 稲武町
(面ノ木峠), 30-V, 80(1)。カエデやクリの
花上で見出された。

24. *Ectinoides insignitus*

(Lewis, 1894) ヨツキボシコメツキ
稲武町(面ノ木峠), 15-VI(1)。個体数は
少ないが各地域で見出されている。

25. *Agriotes elegantulus*

Lewis, 1894 ヒメカバイロコメツキ
稲武町(面ノ木峠), 22-VIII(1♀)。ノリ
ウツギの花上で見出した。

26. *Paracardiophorus pullatus*

(Candèze, 1873) コハナコメツキ
豊根村(望月峠), 28-VII(1)。普通の種であ
る。

豊川市北部(財賀町平尾町)の カミキリムシ相

浅岡 孝知

豊川市の北部地域の財賀町・平尾町について
筆者はここ2, 3年間調査し、その結果がある
程度まとまったので報告する。当地域のカミキ
リ相については、過去に断片的に数編の報文が
あるが、まだまとまった報文は発表されていな
い。両町は豊川市と宝飯郡音羽町との境に位置
し、本宮山系か新箱根山系のどちらに属するか
興味深い地域でもある。一帯の樹木は、スギや

マツなどの針葉樹林の中に、ツブラジイやクス
ギ、クリ、ハンノキなどが残されていて、平地
としては自然度が高いと言える。以下にカミキ
リ相を表にまとめてみた。

和名・学名	財賀町	平尾町	文献記録
1. クロカミキリ <i>Spondylis buprestoides</i>	+	++	3), 5)
2. ムナクボカミキリ <i>Arhopalus rusticus</i>	—	+	5)
3. ニセハイイロハナカミキリ <i>Rhagium pseudojaponicum</i>	+	—	1), 2)
4. ホソカミキリ <i>Distenia gracilis</i>	初記録	—	
5. モモグロハナカミキリ <i>Toxotinus reini</i>	-	—	3)
6. クビアカドウガネハナカミキリ <i>Gaurotes atripennis</i>	-	-	1), 5)
7. キバネニセハムシハナカミキリ <i>Lemula decipiens</i>	+	+	1), 2), 5)
8. ヒナルリハナカミキリ <i>Acmaeops minuta</i>	-	—	1)
9. セスジヒメハナカミキリ <i>Pidonia amentata</i>	初記録	—	
10. ミヤマルリハナカミキリ <i>Anoplodera azumensis</i>	初記録	—	
11. ツヤケシハナカミキリ <i>Marthaleptura scotodes</i>	-	++	5)
12. クロハナカミキリ <i>Leptura aethiops</i>	+	+	2), 5)
13. ツماغロハナカミキリ <i>Leptura arcuata tsumagurohana</i>	+	—	1), 2)
14. キマダラヤマカミキリ <i>Psevdaeolesthes chrysothrix</i>	+	+	2), 5)
15. ミヤマカミキリ <i>Mallambyx raddei</i>	—	+	5)
16. ヨツボシカミキリ <i>Stenygrinum quadrinotatum</i>	+	—	1)
17. アメイロカミキリ <i>Stenodryas clavigera</i>	初記録	—	
18. カッコウメダカカミキリ <i>Stenomalus cleroides</i>	+	—	2)
19. オダヒゲナガコバネカミキリ <i>Molorchus gracilis</i>	+	+	2), 5)
20. カエデヒゲナガコバネカミキリ <i>Molorchus ishiharai</i>	—	+	5)
21. ミドリカミキリ <i>Leontium viride</i>	-	—	2)
22. アオカミキリ <i>Chelidonium quadricolle</i>	-	—	4)
23. ヒメスギカミキリ <i>Palaeocallidium rufipenne</i>	+	+	5)
24. ホタルカミキリ <i>Dere thoracica</i>	—	+	5)
25. ベニカミキリ <i>Purpuricenus temmincki</i>	—	-	5)
26. ヘリグロベニカミキリ <i>Purpuricenus spectabilis</i>	-	—	2)
27. キスジトラカミキリ <i>Cyrtoclytus caproides</i>	—	-	5)
28. エグリトラカミキリ <i>Chlorphorus japonicus</i>	++	++	5)

和名・学名	財賀町	平尾町	文献記録
29. ヒメクロトラカミキリ <i>Chlorophorus diminutus</i>	+	+	1), 5)
30. トゲトゲトラカミキリ <i>Demonax transilis</i>	+	—	2)
31. ゴマフカミキリ <i>Mesosa japonica</i>	+	+	2), 5)
32. キクスイモドキカミキリ <i>Asaperda rufipes</i>	+	++	2), 5)
33. ヒシカミキリ <i>Microlera ptinoides</i>	+	—	2)
34. タテジマカミキリ <i>Aulaconotus pachypezoides</i>	-	—	1), 2)
35. ナカジロサビカミキリ <i>Pterolophia jugosa</i>	+	-	1), 2), 5)
36. ワモンサビカミキリ <i>Pterolophia annulata</i>	—	++	5)
37. アトジロサビカミキリ <i>Pterolophia zonata</i>	+	++	1), 5)
38. アトモンサビカミキリ <i>Pterolophia rigida</i>	+	-	1), 2), 5)
39. マルモンサビカミキリ <i>Pterolophia angusta</i>	—	+	5)
40. ニイジマチビカミキリ <i>Egesina bifasciana</i>	+	++	1), 5)
41. ゴマダラカミキリ <i>Anoplophora malasiaca</i>	初記録	+	5)
42. キボシカミキリ <i>Psacotha hilaris</i>	—	初記録	
43. ホシベニカミキリ <i>Eupromus ruber</i>	初記録	—	
44. ヤハズカミキリ <i>Uraecha bimaculata</i>	—	++	5)
45. ヒメヒゲナガカミキリ <i>Monochamus subfasciatus</i>	+	++	1), 5)
46. カラフトヒゲナガカミキリ <i>Monochamus saltuarius</i>	++	-	2), 5)
47. シロスジカミキリ <i>Batocera lineolata</i>	初記録	—	
48. ヒトオビアラゲカミキリ <i>Rhopaloscelis unifasciatus</i>	+	—	1), 2)
49. シロオビチビカミキリ <i>Sybrodiboma subfasciata</i>	+	—	1), 2)
50. ヒゲナガモブトカミキリ <i>Acanthocinus griseus</i>	—	-	5)
51. トゲバカミキリ <i>Eryssamena insularis</i>	初記録	—	
52. ケシカミキリ <i>Miaenia tonsa</i>	—	初記録	
53. キッコウモンケシカミキリ <i>Exocentrus testudineus</i>	++	+	1)
54. アトモンマルケシカミキリ <i>Exocentrus lineatus</i>	++	++	5)
55. シラオビゴマフケシカミキリ <i>Exocentrus guttulatus</i>	+	++	1), 5)
56. シラホシカミキリ <i>Glenea relictata</i>	+	—	1)

和名・学名	財賀町	平尾町	文献記録
57. ホソキリンゴカミキリ <i>Oberea infranigrescens</i>	+	—	1), 2)
58. キクスイカミキリ <i>Phytoecia rufiventris</i>	+		1), 2)
59. ヨツキボシカミキリ <i>Epiglenea comes</i>	初記録	—	
※備考 表記は ++多産、+普通、-稀、—未確認を示す。			

初記録種のデータ

財賀町地内

1. ホソカミキリ 1EX, 7-VII, '82, 山頂, ビーチング
2. アメイロカミキリ 1EX, 28-VI, '81, 山頂, クリ, ビーチング
3. ホシベニカミキリ 1EX, 28-VI, '81, 山頂, スウィーピング
4. シロスジカミキリ 1EX, 28-VI, '81, 中腹, 破損個体
5. トゲバカミキリ 1EX, 28-VI, '81, 山頂, ビーチング
6. ヨツキボシカミキリ 1EX, 6-VI, '82,
7. ゴマダラカミキリ 1EX, 4-VII, '82, 中腹, スウィーピング
8. セスジヒメハナカミキリ 3EXS, 5-V, '82, スウィーピング
9. ミヤマルリハナカミキリ 2EXS, 18-IV, '82, ビーチング

平尾町地内

1. キボシカミキリ 1EX, 24-VI, '83, イチジク, 建物の近く
2. ケシカミキリ 1EX, 26-V, '82, 1EX, 5-VI, '82, 3EXS, 7-VI, '83, 2EX, 1-VII, '83, ビーチング

以上であった。その結果、59種を確認できたことになる。このうち財賀町には、46種、平尾町には32種、共通種は23種であった。これは全体の39%を占める。この原因には、1. 調査が行き届いていない。2. 植相の違い。3. 標高差などが考えられ、特に、2の植相によるとこ

ろが大きいと思われる。財賀町には豊かな自然が残り、一種特有の景観をしている。いずれにしても、今後更に継続的に調査が必要であるし、また採集地域を拡大し、当地域はどちらに属するかという初期の目的に添うように努力したい。

〈引用参考文献〉

- 1) 山崎隆弘 (1978) 三河の昆虫No. 20: 97 ~ 80 三河の甲虫雑報 (2) 豊川市財賀寺での採集報告。
- 2) 竹田克豊 (1981) 三河の昆虫No. 28: 116 ~ 117 「新緑採集会」結果報告。
- 3) 村田文彦 (1981) 三河の昆虫No. 28: 112 「モモグロハナカミキリ」を豊川市財賀寺で採集。
- 4) 大田佳伸 (1981) 三河の昆虫No. 29: 134 アオカミキリ採集。
- 5) 浅岡孝知 (1982) 三河の昆虫No. 29: 127 ~ 129 豊川市平尾町における昆虫 I。

短報

「東三河における ウスバシロチョウの分布」

鈴木友之

此の地方におけるウスバシロチョウの分布は、高冷地の一部地域を除く山間地に広く分布しており、ところによっては多数が群舞する情景に接することも出来る。

しかし鳳来町中央部付近まで南下すると、急に姿が見られなくなる、食草のムラサキケマンは南部の低地まで分布しているのに何故だろうか、知見の南限ラインは、生息地の自然環境から推察して、もっと南にあるものと考え、機会のある度に調査を続けている。



筆者は最近確認した地域として、(別図参照)作手村南部の巴川流域(豊川支流)、鳳来町南東部の黄柳川流域(豊川支流)等がある、新城市北部は豊川左岸沿い、同南東部、吉川地区が、1例のみであるが、最南の記録地となっている。データは、1978年5月5日、採集の1♂、採集地、新城市吉川、筆者採集。

今後も新城市周辺における調査を続ける予定であると共に、西三河地域における分布状況について同好者の発表を是非願いたいものである。

参考文献

- 1) 鈴木友之(1980)ウスバシロチョウ愛知県
の南限記録、虫譜 19巻1号、14 P.
- 2) 鈴木友之(1981)東三河におけるウスバシ
ロチョウの分布について、虫譜 20巻1号、
32 P.

豊栄町大入溪谷の蝶

白井和伸

1983年6月11日、北設楽郡東栄町大入溪谷で採集した蝶を報告する。この日はツマジロウラジャノメを目標として、浦川からみどり湖までのうち南からおよそ三分の二を歩いた。ツマジロウラジャノメは目撃すらできなかったが、ウラクロシジミ、ミスジチョウなどいくつかの成果を得た。

以下に採集記録を示す。

- ① オナガアゲハ 1♀
- ② モンキアゲハ 2♀♀
- ③ スジグロシロチョウ 3♀♀ このうちの1匹がイヌガラシに盛んに卵を産んでいた。すでに産み付けられていたのを含め46卵を数えることができた。産卵部位は、葉表に15卵、葉裏に21卵、茎に3卵、実に7卵であった。
- ④ ウラクロシジミ 1♂
- ⑤ テングチョウ 1♂
- ⑥ アサギマダラ 2♀♀

- ⑦ イチモンジチョウ 2♂♂
 ⑧ コミスジ 1♀
 ⑨ ミスジチョウ 1♂
 ⑩ ヒメウラナミジャノメ 1♂1♀
 ⑪ ヒカケチョウ 1♂
 ⑫ ヒメジャノメ 1♂
 ⑬ コジャノメ 2♂♂
 ⑭ ダイミョウセセリ 1♂ オニドコロ
 に卵と1~2令幼虫が、ヤマノイモに卵と1令
 幼虫がそれぞれ複数見られた。
 ⑮ ヒメキマダラセセリ 2♂♂

この他にアオスジアゲハ、ムラサキシジミ、
 ルリシジミ、ルリタテハを目撃した。ムラサキ
 シジミは、法面の湿った崖で吸水していた。また
 カラムシにアカタテハの中令幼虫が巣を作っ
 ていた。

豊橋市普門寺のトンボ

白井和伸

1982年に静岡県との県境に近い普門寺で採
 集したトンボを報告する。

- カワトンボ 1♂1♀ (9-V)
 カワトンボ 1♂1♀ (29-V)
 モノサシトンボ 2♂♂2♀♀ (29-V)
 モノサシトンボ 1♂3♀♀ (5-VI)
 シカシヤンマ 1♂ (5-VI)
 なおカワトンボはいずれも透明型である。

愛知県におけるダイミョウ

ヒラタコメツキの分布

大平仁夫

本種は北海道から九州にかけて広く分布する
 種であるが、愛知県では山地性の珍種で、奥三
 河の山岳地帯のごく限られた場所に見出されて
 いる。

本種を最初に愛知県から記録されたのは比較
 的最近になってからで、筆者が知る範囲では穂
 積(1969)による稲武町(23-VI, 68)である。
 その後大平・浅岡(1976)は段戸裏谷(14-VI,
 71)を、山崎(1979)は豊根村(2-V, 76)、
 稲武町(19-V, 76)、津具村(2-V, 76)か
 ら竹内克豊氏が採集された標本を記録している。
 また、大平(1980)は豊根村坂宇場(11-V,
 79)において山崎隆弘氏が採集された雄個体を
 記録している。

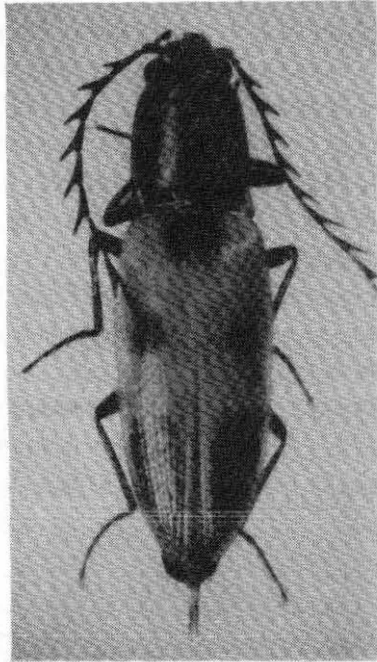
記録上での概要は以上であるが、筆者の手元
 には次の標本を所蔵している。

〔原田猪津夫氏採集標本〕稲武町(面ノ木峠)、
 25-V, 80(2♂); 同左、26-VI, 82(1♀);
 同(井山)、17-V, 81(3♂); 段戸(裏谷)、
 27-V, 81(1♀); 茶臼山、23-V, 83(1
 ♂)。

〔竹内克豊氏採集品〕

稲武町(井山)、17-V, 81(1♂1♀);
 段戸(裏谷)、4-V, 82(2♂)。

以上のように、本種が最近になってかなり多
 く採集されているのは、カミキリムシの分布調
 査の進展によって、早春に咲くカエデなどの花
 を集中的に採集対象にされたためではないかと思
 われる。これによって、愛知県での本種の分
 布はかなり正確につかめるようになっており、そ
 の範囲は富山村(まだ記録はない)、豊根村、
 設楽町(段戸裏谷)、稲武町、足助町などであ
 る。東栄町にはおそらく分布する地域があると思
 われるが、鳳来町の北部まで南下しているか
 どうか今後の調査が楽しみである。また、西三
 河地方では小原村あたりの分布が知りたいとこ



ダイミョウヒラタコメツキ (稲武町)

ろである。いずれにしても、本種の愛知県での分布は、奥三河のきわめて限られた町村の範囲内であると思われる。

引用文献

穂積俊文 (1969) 1968年奥三河で採集された甲虫目録 (Ⅲ), 佳香蝶, 21 (79): 93 - 102.

—— (1977) 東海甲虫誌 (第21報) ——
今までのまとめ、追加・訂正 (その2)、
佳香蝶, 29 (112): 45 - 59.

大平・浅岡 (1976) 愛知県のコメツキムシ
(北設山岳地帯を中心として)、茶臼山高
原道路建設予定地域の自然環境調査報告
書: 141 - 152.

豊根村教育委員会 (1980) 愛知県豊根村の
動物: 1 ~ 285 (豊根村教育委員会).

山崎隆弘 (1979) ダイミョウヒラタコメツ
キ三河地方における分布。虫譜, 12(2):
33.

ヒラタアオコガネ豊川市に産す

松野更一* 竹内克豊**

ヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* (BURMEISTER) は、四国・九州では比較的多く生息するが、本州では西部に産し、中部以北¹⁾の記録は稀なようである。

筆者等は、豊川市財賀町において、本種を発見することが出来た。愛知県では未記録と思われるので、ここに報告しておきたい。

〈採集記録〉

- 1) 採集地: 愛知県豊川市財賀町観音山
採集月日: 1981年5月24日
採集頭数: 2頭
採集者: 竹内克豊
- 2) 採集地: 愛知県豊川市財賀町
採集月日: 1982年5月23日
採集頭数: 1頭
採集者: 松野更一

採集地の財賀町周辺は、暖帯性の灌木が繁茂し、ツブラジイなどの巨木も多く、本種の棲息に最適な環境である。

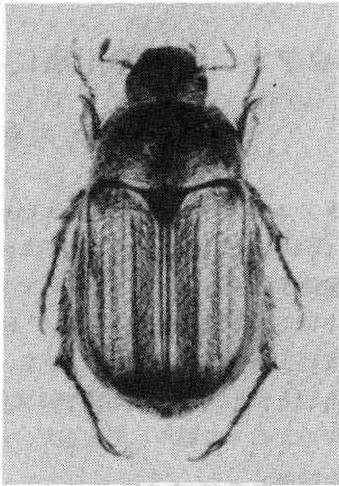
しかし、隣接地にゴルフ場があるので、客土或いは芝生などによって移入された可能性も考えられるが、2シーズンに渡り採集されたことから、当地に土着したものと思われる。

九州では、草地で飛翔中のものや、シイの花で採集されるようであるが、当地では、シイ・エゴ・ミカンの花に訪花していたものを採集した。

末筆ながら、発表にあたり色々とお知らせ下さった、小林裕和氏に心から御礼申し上げる。

〈参考文献〉

- 1) 木村欣二 (1983) ヒラタアオコガネ千葉県
の記録、甲虫ニュース (61): 5.



ヒラタアオコガネ

カバイロアシナゴガネ 作手村に産す

松野更一* 伴 憲隆**

カバイロアシナゴガネ *Ectinohoplia rufipes* (MOTSCHULSKY) は、全国的に分布するコガネムシであるが、中部地方での採集例は、非常に少ないようである。

筆者等は、作手村において本種を発見することが出来た。愛知県では未記録と思われるので、ここに報告しておきたい。

〈採集記録〉

- 1) 採集地：愛知県額田郡作手村田原長ノ山
採集月日：1981年7月5日
採集頭数：51頭
採集者：松野更一
- 2) 採集地：愛知県額田郡作手村鴨ヶ谷
採集月日：1981年7月7日
採集頭数：50頭
採集者：伴 憲隆

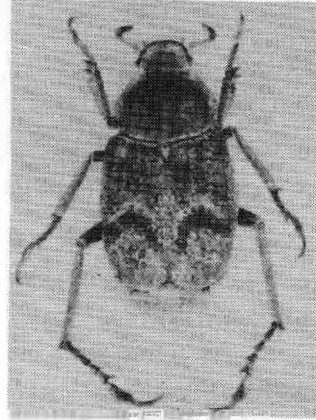
採集地は、長ノ山と鴨ヶ谷の両湿原で、湿原内のハンノキ類の葉上に多数群がっており、ハ

ンノキ類は枯死寸前の状態であった。

高柳久和氏によれば、同湿原にはサクラバハンノキ・ハンノキなどが混生しており、いずれの木からも発見できたが、サクラバハンノキの葉を最も多く食害しているように思われた。

なお、同湿原内にクリの花が咲いていたので調査したところ、近似種のヒメアシナゴガネ・クロアシナゴガネとマメコガネ・コイチャコガネ・ハイロビロウドコガネ・ヒメトラハナムグリ・ツヤスジコガネなどで、本種は1頭も確認することが出来なかった。

末筆ながら、発表に際し色々とお世話下さった高柳久和・小林裕和の両氏とお世話になった鈴木友之氏に心から御礼申し上げる。



カバイロアシナゴガネ

黒田貯水池で

オニクワガタを採集

河路 掛 吾

筆者は1983年3月20日に北設楽郡稲武町黒田貯水池西側の道路脇にあった広葉樹の朽木よりスジクワガタの成虫を数頭と、クワガタムシ科幼虫を数頭採集した。幼虫を持ち帰り飼育したところ、6月13日から7月8日までにオニクワガタ *Prismognathus angularis* WAT-

ERHOUSE 6♂♂ 3♀♀が羽化または羽化脱出した。

いるので、報告しておきたい。ただし、採集記録は成虫の記録のみとした。なお、朽木の樹種はミズナラ、アセビ、エゴノキ等であった。

三河高原でクビアカドウガネハ ナカミキリを採集

河路掛吾

筆者は下記のとおりクビアカドウガネハナカミキリ *Gaurotes atripennis* MATSUSHITA を採集しているので報告しておく。

採集日：29-IV-1983

採集地：東加茂郡下山村大林庵

採集状況：当日のカエデの花はナカミキリが少なかったが、ウワミズザクラが満開で、これにより数種のナカミキリを採集した。この内の1頭が本種であった。

〈採集記録〉

- 1.北設楽郡設楽町段戸裏谷：1♂, 13, XI, 1983, **; 1♀, 23, XI, 1983, *
- 2.同郡稲武町面ノ木峠：1♂, 6, VI, 1976, 松村英一; 5♂♂, 3♀♀, 5, XII, 1982, *; 2♂♂, 1♀, 27, III, 1983, **
- 3.同郡豊根村茶白山：1♀, 20, III, 1983, *

上記の採集記録で、松村氏（現在高知市在住）が1976年に面ノ木峠で採集された個体は、叩き網でナカミキリムシを採集中、枯枝から落下したもので、この標本は現在筆者らが保管している。

なお、名古屋市在住の井野川重則氏より、1983年3月に、茶白山で採集した小型のクワガタ幼虫から、同年秋に本種が羽化したというお電話をいただいたので、付記しておく。

末筆ながら、本稿を発表するにあたり、色々とお世話になった松村英一、井野川重則の両氏に厚くお礼申しあげる。

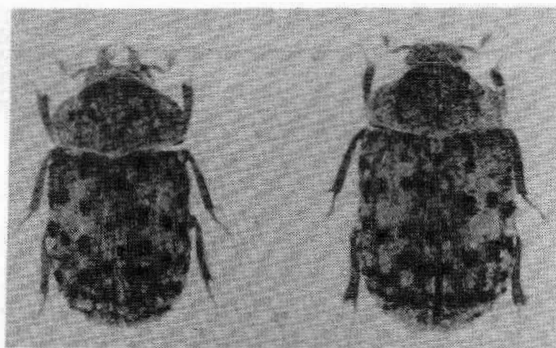
愛知県下における

マダラクワガタの採集例

竹内克豊*・松野更一**

マダラクワガタ (*Aesalus asiaticus* LEWIS) は体長6mm内外と小さく、日本産クワガタムシ科の中では、最も小型種である。体形は丸く、茶と黒のまだらで、大腿が非常に小さいので、一見クワガタムシとは思えない姿をしている。また、本種は小型で地味なうえ、朽木の内部や樹皮下などに潜んでいるため、一般の目には、あまり触れることのない特殊なクワガタムシである。

筆者らは、愛知県下のブナ林内において、冬季の朽木中より、本種の成虫および幼虫を得て



マダラクワガタ

左：♂

右：♀

オオチャイロハナムグリ を段戸裏谷で採集

松野 更一

愛知県における、オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* LEWISの記録は、三河川合¹⁾と富山村²⁾から知られているが、筆者は段戸裏谷で(1♂)を採集しているの、ここに報告しておきたい。

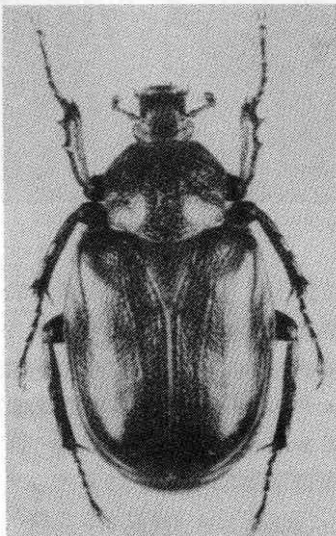
〈採集記録〉

採集地：愛知県北設楽郡設楽町段戸裏谷
採集月日：1982年7月18日 松野更一採集
同上：1983年7月30日 原田猪津夫採集

採集個体は、標高約900米の原生林で、ミズナラの倒木の空洞内に潜んでいた成虫を、幼虫と共に採集した。幼虫は伴憲隆・竹内克豊の両氏と筆者が現在飼育中である。

また、原田猪津夫氏は、上記の場所より30米位離れた所で、ミズナラの立ち枯れ木に静止していたものを1頭採集された。

末筆ながら、貴重な記録の発表を快諾された原田猪津夫氏および、採集に御協力下さった竹内克豊氏に厚く御礼申し上げる。



オオチャイロハナムグリ

- 1) 神谷一男 (1955) 奥三河の昆虫相、北設山岳及び鳳来寺山県立公園一帯の自然科学：33-70、愛知県商工部通商観光課。
- 2) 竹内克豊 (1980) オオチャイロハナムグリを富山村で採集、三河の昆虫 (26) : 104。

三河昆虫研究会総会終る

恒例の総会が1月15日、岡崎市明大寺町にある国立生理学研究所で午後1時から開かれました。参加者は15名で、竹内、原田両氏の講演を聞いた後、情報交換を行い午後5時に散会しました。



〔前列右より 久永、阿江、長谷川、原田、長谷川
後列右より 竹内、浅岡、松野、加藤(真)、鳥居、
水野、高井、杉坂、鋤柄〕

〈事務局より〉

● 昭和59年度会費未納の方は至急事務局までご送金下さい。

● 新年度も年1~2回の会誌を出します。小さな事でもどしどし投稿下さい。3月以降の送付先は事務局の方へお願いします。

〒444 岡崎市明大寺町西郷中

生理学研究所 技術課内 (大平仁夫)
三河昆虫研究会 あて